

新技術・情報名	ハウスイチジクの着色向上のための枝管理法
場所名	長崎県総合農林試験場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>イチジクハウス栽培における果実品質の実態を把握し、着色向上のための摘心方法について検討した。</p> <p>(1) 結果枝の節位別に果実品質を見ると、結果枝基部の果実ほど着色が悪く、糖度も低かった。</p> <p>(2) 葉の光合成速度は結果枝基部に近い葉ほど低く、特に長い結果枝基部の葉はほとんど光合成が行われていなかった。また、基部に近いほど周囲の照度も低かった。</p> <p>(3) 摘心処理を行うことにより結果枝基部の照度は処理前に比べ向上した。</p> <p>(4) 収穫2週間前に20節程度で摘心することにより果皮の着色が向上した。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>摘心処理を行うことによって果実の着色が良好になり、高品質果の生産が可能になる。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>ハウスイチジク園</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>樹勢が強い園では摘心を行うことによって副梢の発生がすることがある。その場合、発生した副梢は適宜、芽かきを行う。</p>	

2. 具体的データ

表1 結果枝の長さ、節位別の果実重及び品質

結果枝長	節位	1果重	糖度	果皮色		
				L	a	b
50~100 cm	1~5	69.5	13.1	39.8	14.0	10.4
	6~10	57.7	15.4	38.4	17.3	9.1
	11~15	46.6	16.0	34.8	17.6	6.2
100~150	1~5	93.4	12.1	46.2	11.7	18.4
	6~10	75.5	13.4	43.7	15.8	15.0
	11~15	70.6	16.2	40.9	17.8	11.3
	16~20	62.2	18.8	34.3	16.7	6.6
150~200	1~5	98.5	11.5	46.4	12.7	18.6
	6~10	85.9	14.4	44.2	15.9	16.1
	11~15	76.1	15.6	42.5	18.1	14.1
	16~20	51.1	16.6	40.8	17.6	12.8
	21~25	49.6	18.2	40.9	13.8	14.8

表2 ハウスイチジクにおける葉の光合成速度と蒸散抵抗

結果枝長	節	光合成速度	蒸散抵抗	光量子
cm		mg·dm ⁻² ·h ⁻¹	sec/cm	
50~100	1	6.02	1.29	200.9
	10	12.88	0.49	391.2
100~150	1	1.52	0.94	57.7
	10	16.23	0.43	346.1
	20	13.43	0.33	330.3
150~200	1	0.40	1.06	129.0
	10	4.36	0.69	116.7
	20	14.11	0.39	330.9

(1990.9.5調査)

表3 摘心処理が新梢長及び園内照度に及ぼす影響

処理	新梢長		1節目照度			10節目照度		
	処理前	処理後	処理前	処理後	比率 ²	処理前	処理後	比率 ²
17節	167.5	119.0	2641	3950	149.6	6738	11624	172.5
20節	162.4	137.5	3622	4360	120.4	6794	8321	122.5
23節	162.9	158.4	2753	2992	108.7	4879	5526	113.3
無処理	170.2	—	3761	—	—	7431	—	—

2) 比率: 処理後/処理前×100

表4 摘心処理が果実の着色に及ぼす影響

処理	L	a	b	△E ²⁾
17節	50.1	11.4	21.4	3.11
20節	43.5	15.2	17.2	5.67
23節	49.0	11.0	21.7	2.68
無処理	47.6	12.4	19.9	—

Z) $\Delta E = \sqrt{(L_0 - L)^2 + (a_0 - a)^2 + (b_0 - b)^2}$

3. その他特記事項

担当部科名: 落葉果樹科

研究課題名: イチジクハウス栽培における適正管理技術の確立

研究期間: 平成2年~3年